

菅さん、い苦勞さん

大森 海太

菅総理が辞意を表明した。多事多難の連続で苦渋の選択であったのだろう。ところが世の中には、やっと辞めてくれた、これで株価も上がるなどと心ないことを言う人がおり、また去る人に鞭打つような論調も多い。私は敢えて反論はしないが、心の中ではご苦勞さんだったとねぎらってあげたい。

新型コロナという未曾有の大厄災に直面して、世界中どの国の政権もその対応には悪戦苦闘しており、なおかつ周囲から非難を浴びている。例外は政権批判を許さない自画自賛の某大国くらいのものだ。

菅さんの場合、これに加えてオリンピック、パラリンピックがあつて大変だった。開催には多くの懸念があつたが、そうかと言ってやらなければやらないで大問題になっただろうし、どちらにしても批判の対象になる。幸い大過なく終えることとなったのはご同慶の至りで、政府ならびに大会関係者には謝意を表したい。

その点マスコミなどは好い加減なもので、やるまえは散々叩いたくせに、始まつてみると金メダルがいくつだ、なんだかんだと囃し立てる。

菅さんは官房長官として長く前内閣を支えてきた名参謀であつたが、突然の政権交代で首相の座についてみると、大将の器としては確かに厳しいものがあつた。自らの所信を明快に国民に伝えるという点についてはイマイチで、その発信力が批判されたのはやむを得ないことであつた。それでも苦手の分野ながら、トツトツとブレずに頑張り通したので、その点からもご苦勞さんと申し上げたい。

さて今度は新しい総裁選び。四人の候補が名乗りを上げて虚々実々。昔から政治の世界には我々の計り知れないドドロドロしたものがあるので、いまさら驚くにはあたらないが、世間には妙な情報通がいて、実はこうなんだ、イヤそれには裏があつてどうのこうのと口から泡を飛ばしている。どうせ新聞、週刊誌かテレビのワイドショーの受け売りだろう。そんなことより、次の世代にはどんなリーダーが登場するのか、静かに見守りたい。